

参列の遺族ら非戦誓う

千葉空襲犠牲者 平和祈念碑の除幕式



千葉空襲で犠牲となった675人の名を刻



んだ平和祈念碑の除幕式が4日、千葉市中央区の亥鼻公園であった。「死者数だけでなく、一人一人の命や生活があったことを後世に伝え、戦争を語り

り継いでいきたい」。参列した遺族らは、石碑に刻まれた家族や友人の名を見つめて冥福を祈り、非戦を誓った。

た。

式には約110人が参加し、黙とう後に祈念碑(高さ2.5メートル、幅1.2メートル)を除幕した。

碑には「忘れない千葉空襲 一人ひとりのいのちの記録」と書かれ、犠牲者名を記したステンス製の板を張り付けた。あだ名や続き柄だけしか判明していない犠牲者もあり、今後新たに名前が判明すれば板を張り替えて追加や修正をする。

参列した千葉市中央区のタクシー運転手、

安達福太郎さん(70)は、戦争で両親を失った。父保夫さんは戦地で病死。母むつさん(当時25歳)は同年5月8

日の空襲時、生後半年の安達さんを背負って逃げる途中、米軍の機

銃掃射を受けて帰らぬ人となった。

祖父や叔母に育てられ、本当の両親が戦中に死亡していたことを知ったのは、小学校高学年のころ。両親がいないことをばかにされたら、いじめられたりもした。2人のことは覚えていないが、それでも、「両親を忘れたことは一度もない。母は必死に私を守ってくれたと思う。母が『国に奉公しろ』と言って来ると思ってた必死に生きてきた」と涙ぐむ。

祈念碑にむつさんの名前が載り、「母の名は永遠に刻まれた。戦争を知らない子や孫に両親を戦争で亡くした悔しさを伝え、戦争のことも永遠に語り継いでいきたい」と力を込めた。

【金森宗之】

念碑にむつさんの名前が載り、「母の名は永遠に刻まれた。戦争を知らない子や孫に両親を戦争で亡くした悔しさを伝え、戦争のことも永遠に語り継いでいきたい」と力を込めた。

【金森宗之】

除幕された祈念碑を見つめ、犠牲者の名前を探し遺族ら。奥には原爆犠牲者の慰霊碑も並んで建っている。千葉市中央区の亥鼻公園で。

念碑建立にこぎつけ

念碑建立にこぎつけ